

事業報告

講座名	こども環境学習講座「角島の海辺の生き物」
日時・場所	令和2年10月18日（日）・つのしま自然館と周辺の海岸
参加者数	26名

角島の海岸を散策しながらの自然観察を通して、自然の豊かさや海辺の生き物たちの多様性の貴重さに気づくことを趣旨とした学習講座を開催しましたので、概要を報告します。

《概要》

1 日程

10:30	開会
10:35～	おはなし「角島の海辺の生き物と自然環境」 講師：山口市立良城小学校 杉村智幸 氏
11:30～	昼食・休憩
12:30～	海辺を歩きながら生き物観察、採取した貝等の同定・標本づくり 講師：山口市立良城小学校 杉村智幸 氏
15:30	閉会

2 おはなし「角島の海辺の生き物と自然環境」

長年角島の自然と深く関わってこられた杉村氏から、以下のような興味深いお話をいただきました。

- ・北長門海岸国定公園は隆起と沈没を繰り返してきたため複雑な海岸線を有し、美しく豊かな自然が随所に残され、県内でも特筆すべき自然財産であること
- ・角島もそのような豊かな自然が残された島で、特に砂浜は白く美しいことで有名であるが、これは、角島には大きな川もなく、砂粒が、貝やサンゴといった生物の殻が細かく砕かれて、海から運ばれてできているからであること
- ・さらには、角島近海では、北からの冷たい海流と南からの暖かい海流がぶつかり合っているため、北で育つ生き物と南で育つ生き物が混在して、多様な種類の動植物が生息していること
- ・近年、最近では温暖化の影響か、角島近海でも海水温が上昇しており、南からの暖かい海流（対馬暖流）にのって、黒潮由来の本来南に住む魚や植物、貝などのたくさんのめずらしい生き物たちがやってきていること
- ・そのひとつであるユリヤガイは、3～5mmの緑色をしたエレガントな貝であり、特定の海藻にしか着生しないため産地は日本海側の数箇所に限られるが、角島は県内最大の生息地であること
- ・さらに最近の傾向として、海岸線に打ち上げられるプラスチックゴミの量が増大して

きており、角島の生き物たちにも深刻な被害をもたらしてきていること
貴重な画像を交えながらの興味深く分かり易い説明や、砂を撒いたバットの中から貝
を探す実習など、受講者の理解が一層深まり、午後の生き物観察に繋がる有意義な講義
でした。

3 海辺を歩きながら生き物観察、採取した貝等の同定・標本づくり

つのしま自然館裏手の大浜海岸に出て、講師から海辺の生物の説明を聞き、砂浜にす
む生き物の観察をしたり、貝の採取をしたりしました。当日は、日頃はめったに見られ
ないめずらしいルリガイが、暖流に乗って集団で砂浜に漂着してきており、小さな貝で
あるにも関わらず一生懸命に探して、数多く採取する受講者が続出しました。また、打
ち上げられたプラスチックゴミの量の多さに改めて全員で問題意識を共有しました。次
に岩場に移動し、磯に住む生き物観察や採取をしました。子どもも大人も嬉々として取
り組み、生き物を見つけては講師に質問を繰り返していました。その後、つのしま自然
館に引き返し、採取した生き物の同定・標本づくりに取り組みました。同定は困難でし
たが、つのしま自然館の標本等を活用しながら、受講者は真剣に作業に取り組みまし
た。思わず貴重種を見つけ、講師から褒められた受講者もいました。

4 まとめ

30名の募集に対して106名の応募があり、10家族28名参加として対応しまし
た。(辞退者もあり、当日参加者は26名)

新型コロナウイルス感染症対策として、講義会場では3密を避けるため別室にモニタ
ールームを設置するなど、当センターで設定した留意点に従い、安心・安全な講座運営
が実施できました。

受講者は終始意欲的に学習し、角島の豊かな自然の中で海辺の生き物たちの多様性の
貴重さについて理解を深めることができた貴重な1日とすることができました。



講義風景



講義風景



貝を探す実習風景



砂浜の生き物の観察風景



磯の生き物の観察風景



海辺の散策風景



採取した生き物の同定風景



標本づくり風景